

強者の戦略

英語から学ぶ1「思索のアルバム(1)」

日本語という言語は「てにおは」を変えるだけで様々な含みを文に込めることができます。たとえば、「英語を学ぶ」という文において英語は学ぶ対象を意味していますが、「英語で学ぶ」という文では英語が学ぶ手段であることを意味するかもしれません。「英語から学ぶ」という文はどうでしょうか。英語が学びの対象ではあるという点では「英語を学ぶ」と同じですが、この文からは学びの対象の中に英語学習の枠に留まらない『何か』があるような印象を受けます。

今回からお送りする『強者への道』では、英語学習における第3の側面——すなわち「英語から学ぶ」——に主眼を置き、強者を志すあなたが解き明かすにふさわしい『何か』を備えた文章を紹介してゆきたいと思います。今回掘り下げてみたいのは、20世紀を代表する哲学者の1人である Ludwig Wittgenstein の *Philosophical Investigation* (正確には、今回取り上げるのはドイツ語で書かれた原文が G.E.M. Anscombe によって英訳されたものですが) の序文の中にある次の一節です。

Thus this book is really only an album.

Ludwig Wittgenstein, translated by G.E.M. Anscombe (1953),
Philosophical Investigation, Basil Blackwell, p. vii

これを日本語に訳すと、「それ故にこの本は真の意味で単なるアルバムである。」となるのでしょうか。そして今回のお話は、この一見何の変哲もない1文の意味を掘り下げるところから始めたいと思います。

初めてこの文を読んだとき、私の脳裏に2つの疑問が浮かびました。1つは、「なぜ1つの文に really と only の2つの副詞を込めたのだろうか？」という疑問です。この文に文法的な誤りがあるわけではありません(インターネットで検索すれば、決して少なくない数の用例を見いだすことができます)、なぜ“this book is really an album” (この本は本当にアルバムなのだ) でもなく“this book is only an album” (この本は単なるアルバムである) でもなく、“this book is really only an album” (この本は真の意味で単なるアルバムである) と表現したのかが気になったのです。

気になってしまう理由を突き詰めて考えてみると、私はもう1つの疑問に出くわすことになりました。そもそも“this book is an album”とはどういう意味なのでしょう。そもそも「本」とは読まれるものであり、見られるべき写真や聴かれるべき楽曲が収められた「アルバム」とは本質的に異なるのではないのでしょうか。あるいは、日本語と英語ではそれらの語の定義が異なるのかもしれませんが(翻訳という営みを行うときは、英語と日本語で定義域が異なる可能性に常に留意することが肝要です)。 *Oxford Advanced Learner's Dictionary 9th edition* を紐解いてみると、book と album はそれぞれ次のように定義されています。

book : a set of printed pages that are fastened inside a cover so that you can turn and read them

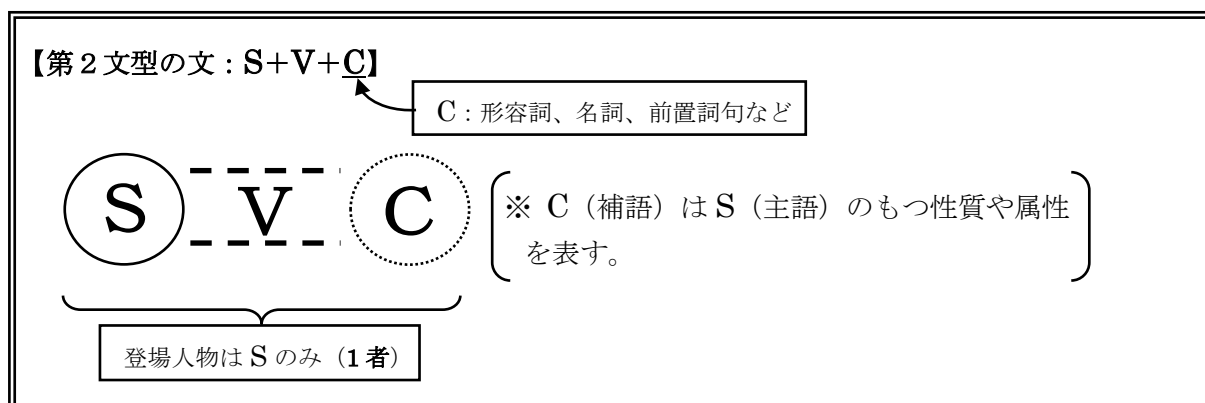
album : a book in which you keep photographs, stamps, etc

Oxford Advanced Learner's Dictionary 9th edition, Oxford University Press, 2015.

強者の戦略

ここで注目して欲しいのは、book は英語においても「読み物」として定義されていること (so that 以下に注目!)、そして album は通常 read の目的語とはならない「photograph」や「stamp」を収めた本として定義されていることです。日本語で考えてみても、「本」(book) から「アルバム」(album) を連想することは、本から「小説」(novel) や「雑誌」(magazine)、「漫画」(comic book) を連想することよりも蓋然性は低いでしょう。実際、この本 (すなわち *Philosophical Investigation*) は正真正銘の哲学書であり、写真なんて1枚も貼られていません (表紙に Wittgenstein の写真が印刷されている版はありますが...)。それなのに、いやだからこそ、Wittgenstein は自らの著書について“this book is an album” (この本はアルバムである) という、外観からは予想できない特徴を宣言する必要があったのでしょう。

この本が一般的な意味でのアルバムではないのは明らかなのに、「この本は真の意味で単なるアルバムである」と書かれている.....これが、私が抱いた違和感の正体だったようです。そしてこの違和感は、高校生レベルの英文法の知識で問題なく解消できます。修飾表現を取り除いた形である“this book is an album”から話を始めましょう。“this book is an album”は第2文型の文です。an album は「補語」(Compliment) に分類され、補語は主語 (この場合は this book) がもつ性質や属性を表します。これを踏まえて“this book is an album”を日本語で表すと、「この本にはアルバムの性質——より正確には、アルバムという語から連想される性質——が備わっている」というとなります。



このように、第2文型の文を深く理解するためには補語がどのような性質を表すかに注目しなければいけません。その深い理解を要求する問題が1998年に東京大学で出題されています (前期日程、第5問(3))。“Peter is (3) a real goose!”の下線部のニュアンスを答えるよう求めるその問題が提示した選択肢は、「clever」「evil」「fast」「stupid」の4つでした。「ピーターは本物のガチョウだ！」と直訳しても何の役にも立たないとは言ってもありませんが、goose という語が表す性質について文脈を頼りに深く理解することが求められています。ちなみに、goose は従順で愛嬌があるがやや不器用であるとされ、そこから「とんま、まぬけ」の代名詞として用いられるようになったとされています。

話を“this book is an album”に戻しましょう。Wittgenstein が自らの本を「真の意味で単なるアルバムである」(really only an album) と言うとき、そこにはどのような意味が込められているのでしょうか？ それを理解するためには、album という語が Wittgenstein の文脈においてどのような性質を表すのかを理解する

強者の戦略

必要があります (もともと、album という語が常識外の意味で用いられるとは考えにくいですが)。また、こ
こまでは一旦無視してきた 2 つの副詞、really と only についてもその意味を考えないわけにはいきません。
really は、あるものについて本当は何が事実ないし真実かを告げるために (to say what is actually the fact or
the truth about something) 用いられていて、この場合の only は、それが最善であり他の選択肢が選べない
ことを告げるために (to say that something is the best and you would not choose any other) 用いられて
います (いずれも *Oxford Advanced Learner's Dictionary 9th edition* を参照)。このことが意味するのは、
「この本がアルバムである」というのは比喩などではなく文字通りの意味であり (really のニュアンス)、そ
れ以外に適切な形容が存在しない (only のニュアンス) ということだと思われま

話が複雑になってきたので、論点を整理しましょう。

【前提】

- ① 「本」(book) は文章が主体で「読む」ことを主たる鑑賞手段とする。
- ② 「アルバム」(album) には写真や楽曲などが収められていて、主たる鑑賞手段は「読む」ではなく「見る」「聴く」などである。
- ③ この本は一部のイラストを除けば文章のみで構成されている。

【前提からの帰結】

- ④ 従って、この本は読み物であるという点で「本」(book) に分類される。

【本の記述内容】

- ⑤ この本は本当の意味でアルバム (album) であり、それ以外に適切な形容が存在しない。

①と②は辞書の定義から引用したもので、③は客観的事実です。④は①～③からの論理的帰結となり、⑤は本文の記述から読み取れる内容です。そして、④と⑤で明白な矛盾が生じています。これを解消するには④か⑤のいずれかを偽として棄却するしかないのですが、この 2 つが両立しなければ「*Philosophical Investigation* は支離滅裂である」という身も蓋もないオチがついてしまいます。③は疑えないので、この矛盾を解消するには①と②を疑ってかかるしかありません。あるいは、Wittgenstein の言葉を字義通りの意味で受け止めるのではなく、この文に至るまでの文脈でそれぞれの語にどのような意味が込められているかを探るかです。

次回以降は、*Philosophical Investigation* の序文をもう少し紐解くことでこの矛盾めいたものの解消に取り組んでみたいと思います。